

申請者: HABIB, AHSAN

論文題目 EARNINGS MANAGEMENT AND VALUE RELEVANCE OF ACCOUNTING
INFORMATION IN JAPAN: A CORPORATE GOVERNANCE PERSPECTIVE

審査員 万代勝信
新田忠誓
挽 文子

本論文は、株価は企業の純資産簿価と将来の超過利益の割引現在価値の合計で示されるというOhlsonモデル(一部修正)を用いて日本の会計情報の価値関連性を実証的に分析した部分と、裁量的発生処理高等を用いて会計情報に与える利益操作の影響を実証的に分析した部分からなる。

本論文の評価すべき特徴の第一は、系列、株式の持ち合い、メインバンク制などの日本企業の特徴から仮説を導き、それを実証的に分析したことである。本論文で挙げられている仮説のすべてが実証的に証明されたわけではないが、大きな貢献である。

第二は、日本の経営者がアナリストの予想利益を満たすために裁量的発生処理高を用いていること、しかし投資家はこのような経営者の行動を把握し、株価を低く評価していることを実証的に明らかにしたことである。

第三は、経営者による利益操作を、産業別に分析し、その実態を明らかにしたことである。

本論文の特に指摘すべき欠点として二つあげておく。第一は、本論文ではOhlsonモデルを一部修正して用いているが、それについての説明が行われていないことである。第二は、実証分析のインプリケーションとしてアメリカ型のガバナンスの方向へ向かうことが示されているが、むしろ日本型のガバナンスに内在した観点からのインプリケーションを導くことが望まれることである。しかし、これらの欠点は、上に述べた長所を損なうものではない。

よって、審査員一同は、所定の試験結果をあわせて考慮し、本論文の執筆者が一橋大学学位規則4条第1項の規定により一橋大学博士(商学)の学位を受けるに値するものと判断する。